

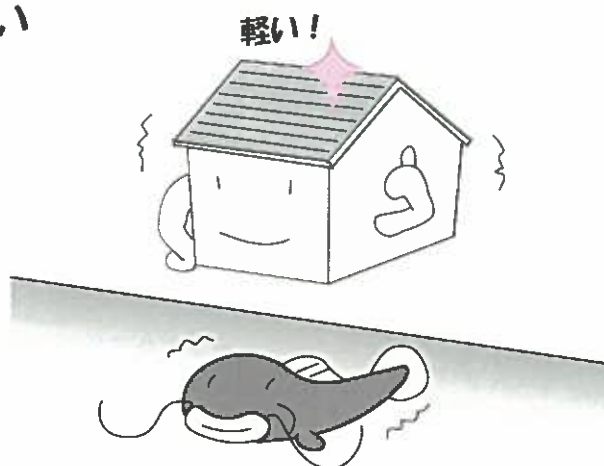
## 理由3

恐ろしい地震や台風が来ても安心です。

自然災害から家族を守るには軽くてガッチリ頑丈なことがポイントです

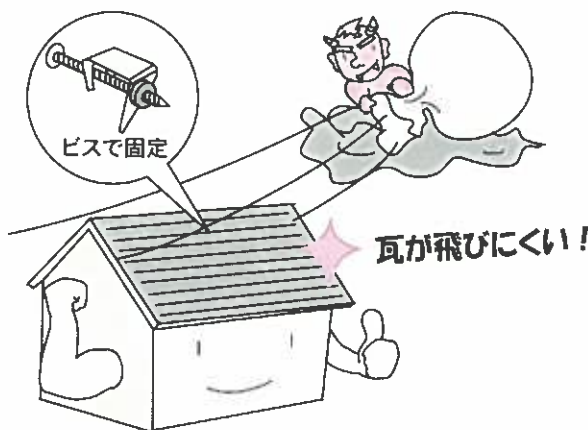
## 1 軽い屋根は地震に強い

日本の住宅の屋根は瓦が多いのが特長です。阪神淡路大震災では多くの家が倒壊しましたが、以前は瓦を土の上に乗せることが多く、屋根がとても重かったのが原因の一つでした。最近の屋根は土を使わず、瓦自体も軽くなったため、屋根の重さは昔の約半分になりました。屋根を軽くリフォームすることで地震が来ても家が倒壊しにくくなるのです。



## 2 台風が来ても瓦が飛ばされない

日本は台風被害の多い国です。昔の土に瓦を乗せる方法では、台風が来ると瓦が飛んだりずれたりして雨漏りの原因にもなりました。最近では瓦をビスでがっちり留める工法が一般的になったため、強い台風が来ても瓦が飛ばされるといった問題は起こりにくくなりました。



## 3 横殴りの雨でも雨漏りしない

古い瓦屋根では隙間から雨が吹き込んで雨漏りの原因になることがあります。最近の瓦には返しと呼ばれる部位があるので、雨が横殴りに降っても、この返し部分に水が当たって内部に雨が入りにくい構造になっています。またスレート瓦も重なり合う面積を広くしたことで、雨水が浸入しにくくなるように改良されました。



## 知っておきたい豆知識

2000年に法律が改正され、新築住宅は重大な欠陥が起きても大丈夫なように、10年間の保証が義務付けられるようになりました。これにより屋根から雨漏りした時などは、補修したり、生じた損害を保証してもらえるようになりました。この法律の改正によって、雨漏りのしにくい屋根が研究が進み、安心な屋根になってきました。

法律改正で雨漏りに  
対する責任がアップ

一般的な住宅(100m<sup>2</sup>)での屋根材の重さの比較

屋根材でこれだけ違う屋根の重さ